外科専門研修プログラム

2021 年度

（追補版）

東京女子医科大学東医療センター

外科

呼吸器外科

心臓血管外科

乳腺外科

救急医療科

2020 年 11 月

本冊子は東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラム、特に「緊急外科コース」の内容につき、追補版として解説を加えたものである。

1. 東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラムについて

東京女子医科大学東医療センター外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の 5 点です。

1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
5) 外科領域全般からサブスペシャルティ領域(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科、小児外科)またはそれに準じた救急医療（Acute Care Surgery）などの外科関連領域の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

東京女子医科大学東医療センターと連携施設(11 施設)により専門研修施 設群を構成します。
本専門研修施設群では以下の 37 名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修基幹施設（資料 1.東京女子医科大学東医療センター施設紹介 参照）

No.	氏名	所属	都道府県	役職	指導担当分野	役割
1	塩澤俊一	外科	東京都	教授・診療部長	1	1
2	前 昌宏	呼吸器外科	東京都	臨床教授・診療部長	3	2
3	上部一彦	心臓血管外科	東京都	准教授・診療部長	2	
4	平野 明	乳腺外科	東京都	准教授・診療部長	5	
5	庄古知久	救急医療科	東京都	教授・診療部長	6	
6	大東誠司	外科	東京都	特任教授	1	
7	勝部隆男	外科	東京都	臨床教授	1	
8	島川 武	外科	東京都	准教授	1	
9	古川博史	心臓血管外科	東京都	准教授	2	
10	横溝 肇	外科	東京都	講師	1	
11	碓井健文	外科	東京都	講師	1	3
12	松本卓子	呼吸器外科	東京都	講師	3	
13	浅香晋一	外科	東京都	准講師	1	
14	清水俊榮	呼吸器外科	東京都	准講師	3	
15	久原浩太郎	外科	東京都	助教	1	
16	岡山幸代	外科	東京都	助教	1	
17	中安靖代	外科	東京都	助教	1	
18	川島章子	小児外科	東京都	助教	4	
指導担当分野:1. 消化器外科 2. 心臓血管外科 3. 呼吸器外科 4. 小児外科 5. 乳腺内分泌外科 6. 救急外科						
役割:1. 統括責任者 2. 副統括責任者 3. 連携施設担当者						

専門研修連携施設（資料 2.連携施設紹介 参照）

No.	氏名	所属	都道府県	役職	指導担当分野	役割
1	村山 実	いずみ記念病院	東京都	外科診療部長	1	
2	中島 修	いずみ記念病院	東京都	外科部長	1	
3	山崎勝雄	いずみ記念病院	東京都	病院長	6	3
4	金 達浩	彩の国東大宮メディカルセンター	埼玉県	副院長・外科部長	1,6	3
5	金 直美	彩の国東大宮メディカルセンター	埼玉県	外科医長	5	
6	吉松和彦	埼玉県済生会栗橋病院	埼玉県	外科統括部長	1	3
7	渡辺 修	三和病院	千葉県	病院長	1,5	3
8	曾澤雅樹	新潟県立がんセンター新潟病院	新潟県	消化器外科部長	1	3
9	今野宗一	西新井病院	東京都	外科部長	1	3
10	臼田敦子	西新井病院	東京都	外科医員	1	
11	矢川裕一	西新井病院	東京都	外科顧問	1	
12	服部晃典	川口誠和病院	埼玉県	外科部長	1,5	3
13	佐竹昌也	川口誠和病院	埼玉県	外科医員	1	
14	宮澤美季	川口誠和病院	埼玉県	外科医員	1	
15	松本敦夫	滝不動病院	千葉県	外科部長	1	3
16	齋藤由理	中通総合病院	秋田県	消化器外科科長	1	3
17	高橋研太	中通総合病院	秋田県	消化器外科科長	1	
17	野地 智	東大和病院	東京都	病院長	2	3
18	舘林孝幸	東大和病院	東京都	副院長	2	
19	山口健太郎	流山中央病院	千葉県	外科部長	1	3

2022 年度より東京女子医科大学八千代医療センター（消化器外科部長　片桐聡）が連携施設に参加予定

3. 専攻医の受け入れ数について

本プログラムにおける研修可能な NCD 登録数(3 年間)は 9,171 例で、専門研修 指導医は 39 名のため、2021 年度の募集専攻医数は 7 から 8 名です。

4. 外科専門研修について

下図に外科研修プログラム(例)を示します。専門研修 1 年目は基幹施設で外科の基本手技と共に必修領域の呼吸器外科・心臓血管外科・乳腺外科・小児外科・救急外科などをローテーションします。専門研修 2,3 年目は基幹もしくは連携施設で研修を積みますが、必修領域の研修も十分に修了したと判定された場合は、サブスペシャルティを考慮した研修プログラムへの変更も考慮します。また、日本専門医機構の調整で地域医療の研修を目的に、ローテーションする 3 施設が異なる医療圏に存在する場合もあります。

東京女子医科大学東医療センター外科研修プログラムでの 3 年間の施設群ローテートにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

<table>
<tr><td>1 年次</td><td>2 年次</td><td>3 年次</td><td>4 年次以降</td></tr>
<tr><td>基幹施設</td><td>連携施設 A</td><td>連携施設 B</td><td>基幹施設</td></tr>
<tr><td colspan="3">外科専門研修</td><td rowspan="8">サブスペシャリティー</td></tr>
<tr><td>消化器外科</td><td rowspan="7">外科一般</td><td rowspan="7">外科一般</td></tr>
<tr><td>心臓血管外科</td></tr>
<tr><td>呼吸器外科</td></tr>
<tr><td>乳腺外科</td></tr>
<tr><td>内分泌外科</td></tr>
<tr><td>小児外科</td></tr>
<tr><td>救急医療科</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">サブスペシャリティー領域など専門研修</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td>外科専門医試験</td></tr>
</table>

当外科研修プログラムの研修期間は 3 年間としていますが、習得が不十分な 場合は習得できるまで期間を延長することになります(未修了)。一方で、カリキュラムの技能を習得したと認められた専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能教育を開始します。

- 専門研修 1 年目基幹施設の東京女子医科大学東医療センターで研修を行います。 消化器・一般外科/心臓・血管外科/呼吸器外科/乳腺外科/小児外科をローテートし、救急医療科の指導のもとで救急疾患(Acute Care Surgery)も随時経験します。
  経験症例 120 例以上(術者 50 例以上)
- 専門研修 2 , 3 年目 基幹もしくは連携施設群のうちのいずれかの施設に所属し研修を行います。 消化器・一般外科を中心に救急/心・血管/呼吸器/小児/乳腺疾患を広く経験します。
  経験症例 350 例以上/2 年（術者 120 例以上/2 年）
- サブスペシャルティ領域などの専門医取得をめざした研修を行います。 3 年次からはサブスペシャルティ領域(消化器外科, 心臓・血管外科, 呼吸器外 , 乳腺外科、内分泌外科、小児外科)または外科関連領域(外傷外科、Acute Care Surgery など)の専門研修を開始します。

「緊急外科コース」に関して

東医療センター救急医療科は外科系関連診療科として、当外科専門医プログラムに参画しています。2021 年度からは Acute Care Surgeon 育成のために「緊急外科コース」を開設しました。一般外科、外傷外科のみならず外科系各専門分野の知識と手術経験が必要となるため、1 年目は東医療センター外科系各診療科、2 年目以降は八千代医療センターなどの専門研修連携施設にもご協力いただき修練することになります。本コース終了後は Acute Care Surgery(ACS)学会の認定外科医取得を目指します。ACS は救急外科・外傷外科・集中治療の 3 領域を担当する新しい専門領域です。ACS 学会は外科専門医の 2 階部分となるサブスペシャリティ領域専門医制度の認定を目指しています。また、希望者には外科専門医取得後に救命救急センターに勤務し、救急科専門医を取得（ダブルボード）することも可能です。